

畜産技術

LIVESTOCK TECHNOLOGY

2012.6



ミニブタ「サクラメヒコ・ペローン系」

撮影：(独)家畜改良センター茨城牧場 齊藤 政宏

提言	先ず疑うべし	1
研究レポート1	豚ガラス化保存受精卵の長距離輸送による産子生産	2
研究レポート2	牧草と長大型飼料作物を利用したワルナスビの耕種的防除	6
技術情報1	腔内粘液電気抵抗値の測定によりアグー種豚の繁殖効率の向上が期待できる	11
技術情報2	脂肪の質とオレイン酸とSCDの話	15
技術情報3	“牛肉のオレイン酸割合を高める”生米ぬか給与による、おいしい牛肉生産	18
技術情報4	繁殖母豚の飼養管理	22
研究所だより	愛知県農業総合試験場	26
連載	わが国畜産研究・技術開発の黎明 第15回 草地分野における技術開発とその背景(3)	28
海外情報	牛の神経質さが牛飼養及び生産性に及ぼす影響	34
国内情報	飼料作物品種情報整備データベースの現状と課題	38
地域の動き	第10回全国和牛能力共進会長崎県大会について(長崎県)	41
文献情報①	牛の文化史	43
文献情報②	乳牛管理の基礎と応用 -2012年改訂版-	44
用語解説	閾値形質における遺伝的能力の推定	45
会員だより	新潟県畜産技術協会	46
会員だより	公益社団法人 日本馬事協会	47
百舌鳥	共助の精神「おかげさま」	48
協会だより	平成23年度 都道府県の研修会・セミナー開催状況	49
平成24年度 春の勳章受章者		37
今月の表紙		33
グラビア	研究所だより/地域の動き	

会員だより

新潟県畜産技術協会

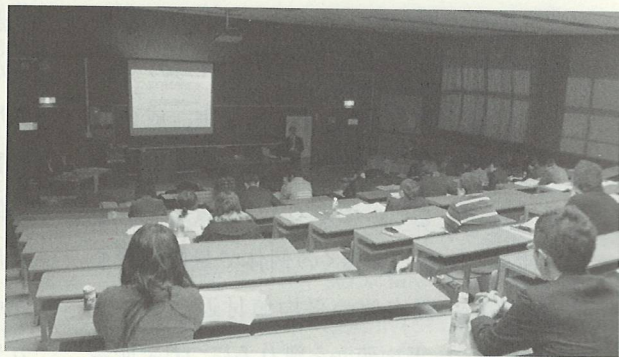
新潟県畜産技術協会の活動について ～公開シンポジウムの開催～

新潟県畜産技術協会は、畜産技術者等畜産関係者相互の連絡を図り、もって畜産の振興に寄与することを目的として平成2年に設立しました。前述の目的を達成するため、当協会では、主に畜産技術の向上発達並びに普及に努めています。

平成23年度の地域畜産技術情報連絡会等開催事業の活動として、北信越畜産学会新潟県分会と共催で、公開シンポジウム「東京電力福島第一原子力発電所事故の畜産への影響について」を平成24年3月16日に開催しました。

講演では新潟県農林水産部畜産課から「東京電力福島第一原子力発電所事故後の情勢について」と題して、全国における汚染牛肉の発生と本県における対応・全頭検査の結果や、牛ふん堆肥の状況についての説明がありました。

また、新潟大学農学部の山城助教から、東



公開シンポジウム

北大学加齢医学研究所の福本教授と実施している被災動物の包括的線量評価事業の一つの「福島原発20km圏内の家畜における体内放射性物質の動態解析」について講演をいただき、牛の内部被ばくの実態を明らかにするとともに、と畜前の放射性物質蓄積に対するの推定技術を開発する事を目的に調査した結果、放射性セシウムは血液内濃度と筋肉内濃度の間に強い相関があり、血中放射性セシウムから筋肉集積量を推定できるとの報告がありました。

講演後の総括質疑では、活発な質疑応答や意見交換が行われたほか、参加者からは、社会的に関心の高いテーマを取り上げているとして高評価を頂きました。

今後も当協会の活動が本県の畜産振興に寄与することを目的として活動していきます。

(新潟県畜産技術協会 事務局 新田見 浩由)



総括質疑

日本馬事
馬以外の農
の改良増殖
識の普及や
て活動を行
団法人の認
農用馬は
しての需要
九州等で生
が帯広競馬
等で農用馬
養頭数が減
なっていま
トン種等に
ますが、毎
純粋種が已
生産は、は
言われてお
んえい競馬
せん。一方
生体輸入が
増加する飼
品質等の飼
で、今後
乗用の馬
ものの新が
盛んになり
ら、乗用馬
域や岩手県
は2百頭を
馬を導入し
近では、目